

第6回市民協働指針検討委員会 議事録

日 時	平成19年3月1日(木) 18:30~20:30
場 所	303会議室
出席者	委 員 泉谷 清、小杉 恵津子、吉田愛子 久保 純一、松本 史典、富塚 広、瀬川 真弓 恵庭市 広報広聴課長 吉田 真俊
<p>1. 第5回委員会議事録確認</p> <p>2. 質疑及び意見交換</p> <p style="margin-left: 40px;"><資料 案1:2,3ページ、案2:4ページ> <新たに提出された資料の説明 5ページ、6ページ></p> <p>事務局： 会議案内の時に送った資料は、それぞれ方向性は同じだが、起点となるところが違う2つを示した。</p> <p>委員： それぞれにいいフレーズをもっているので、案1をベースに他の資料のいいところを合体していきたい。</p> <p>委員： 「コミュニティ」という言葉がわからない年代がある。代わる言葉はないか。</p> <p>委員： 「協働」をどうわかりやすく説明するか。</p> <p>委員： 「人は一人で生きているのではありません」という言葉はちょっとおこがましい。</p> <p>委員： 「わたしたち」とは、市民か委員会委員か。</p> <p>委員： 「環境を守る」の環境は生活環境か。身近な環境、生活と解釈出来るか。</p> <p>委員： 「さまざまな問題」の具体的な例示が必要。</p> <p>委員： 人の繋がりが強くなった事でまちが大きくなったわけではない。逆に大きなまちになって人の繋がりが弱まった。</p> <p>等の意見により資料7,8ページのとおり修正。これをパンフ冒頭に掲載することとし、次回までにパンフ概要を作成する。</p>	

協働のまちづくりの主人公として

・ いま始まる私たちのまちづくり・

人は一人で生きているではありません。

人はコミュニティを作り、そこでよりそい、助け合い、知恵を出し合うことで生活してきました。

人の繋がりは強まり、人が集まりコミュニティはやがて大きなまちとなり、効率良く人を支え、運営していく専門職が必要となり、行政が生まれまちを支えるようになりました。

時がたち、わたしたちの暮らしは豊かになりました。

しかし今、人と人との繋がりは弱まり、コミュニティの役割は希薄になり、さまざまな問題が生じてきています。

子供たちの安全や安心に不安が生じ、地域に仲間と呼べる人がいなくなり、人と人との信頼関係が崩れ、環境を守ることが難しくなり、行政では解決出来ない問題が生まれています。

わたしたちはこのような問題を解決するためには、再びコミュニティの役割を大切にし、人と人との繋がりを強め、行政だけに頼らないまちづくりをし

ていかなければいけないと考えました。

わたしたちは、互いに協力しあう形、行政と協力してまちづくりを進める方法を提案します。

それが、「人と人、市民と行政の協働のまちづくり」です。

わたしたちは、誰もが

健康で安心して暮らしたい。

仲間がいて、生きがいのある暮らしをしたい。

恵まれた自然・きれいな水・澄んだ空気のなかで暮らしたい。

子供たちを健やかに育てたい。

と願っています。

そして、この暮らしを創り出すのはまちの主人公である私たち自身の行動です。

市民向け資料文案 1 ページ

A：このまちの主人公はあなたですーいま始まる私たちのまちづくり

B：人のつながりが変える暮らしと地域～いま始まる私たちのまちづくり

人と人とのつながりは弱まり、コミュニティの役割は希薄になり、行政だけでは解決できないさまざまな問題が生じています。

今、そしてこれからも私たちはこのまちで、お年寄りも体の不自由な人もみんな健康で安心して暮らしたい、仲間がいて、生きがいがある、恵まれた自然・きれいな水・澄んだ空気のなかで暮らしたい、子供たちを健やかに育てたい。～そんな「幸せの条件」を創り出すのは、まちの主人公である私たちの行動です。

例えば、家の中や身近なところのゴミを集め、燃やせるゴミ、燃やせないゴミ、リサイクルできる資源に分別して決められた収集日にゴミを出す。町内会の呼びかけで公園のゴミを集めたり街路樹の落ち葉を集める。それを行政が回収し処理する。

環境の事、子供たちの事、安全や安心で豊かな暮らしの事。家庭と地域、地域と行政そして家庭と行政、お互いの協力と役割分担が「幸せの条件」創りに欠かせません。少しずつ手を伸ばし、それぞれの特徴や力を活かしあって、まちづくりのためにいっしょに行動できれば、手の届かなかった共通する課題も解決できるはずです。

私たちは、人と人とのつながりを取り戻し、互いに協力しあう形、行政と協力してまちづくりを進める方法を提案します。それが、「人と人、市民と行政の協働のまちづくり」です。

それは義務でも押し付けでもありません。でも、私たちのまちだからこそ、自分たちの手で住み良くしていきたいから、みんなで力を合わせるのです。

「協働」はまず一人ひとりの思いから始まります。さあ、「幸せの条件」を創り出すために、行動を開始しましょう。

私たちは、将来にわたって「安全で、安心して快適に暮らしていける生活」を望んでいます。

そこには、

「自然と共生する一水と緑、暮らしの景観一花に彩られたまち」

「健康で暮らし、健やかに子どもを育てるまち」

「自ら学び、元気な身体を育むまち」

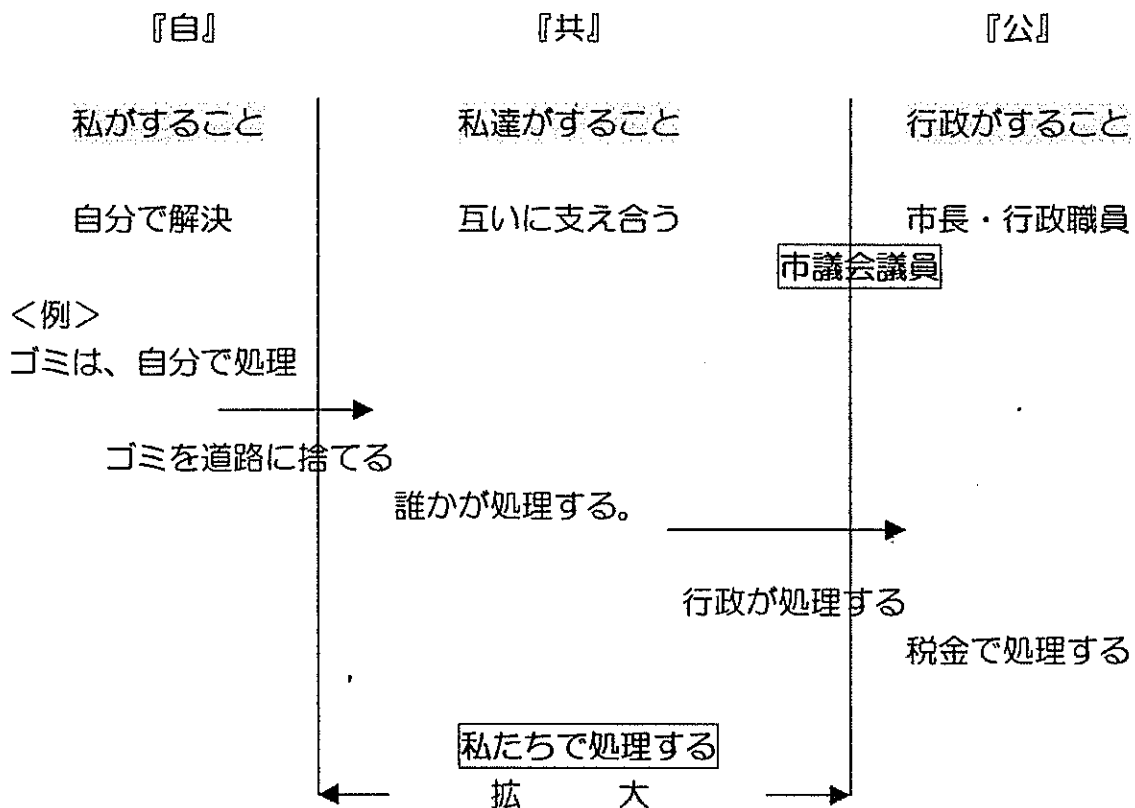
「生活環境が整い、安心して暮らせるまち」

「恵庭の資源を生かし、元気なまち」

があります。

そのために、

「私たち^{トカマ}同志で、市民と行政とが、情報と活動を共有するまち」にしませんか。
それが「私たち自身が行動する協働のまちづくり」です。



私、自身で解決できるものは、自身で解決。

若し、私たちでできない場合は、「税金を多く払って」処理してもらう。

A：このまちの主人公はあなたですーいま始まる私たちのまちづくり

最近、昔に比べて、ご近所や職場の人との結びつきが弱くなり、行政だけでは解決出来ない様々な事が起こっています。

今、そしてこれからも私たちはこのまちで、お年寄りも体の不自由な人もみんな健康で気持ちよく暮らしたい、仲間がいて、生きがいがある、恵まれた自然・きれいな水・澄んだ空気のなかで暮らしたい、子供たちを健やかに育てたい。 そんなまちづくりをするのは、まちの主人公である私たちの行動です。

例えば、家の中や身近なところのゴミを集め、燃やせるゴミ、燃やせないゴミ、リサイクルできる資源に分別して決められた収集日にゴミを出す。 町内会の呼びかけで公園のゴミを集めたり街路樹の落ち葉を集める。

それを行政が回収し処理する。 この役割分担が協働のまちづくりに繋がるのです。

環境の事、子供たちの事、安全で安心な豊かな暮らしの事。 お互いの協力と役割分担がまちづくりに欠かせません。 少しずつ手を伸ばし、それぞれの得意な事や思いを活かしあって、まちづくりのために一緒に行動できれば、いままで手の届かなかった大きな課題も解決できるはずです。

私たちは、人と人との繋がりを取り戻し、お互いに協力しあい、行政と協力してまちづくりを進める方法を提案します。 それが、「人と地域、市民と行政」の協働のまちづくりです。 それは義務でも押し付けでもありません。 でも、私たちのまちだからこそ、自分たちの手で住み良くしていきたいから、みんなで力を合わせるのです。「協働」はまず一人ひとりの思いから始まります。住み良いまちづくりのために、行動を開始しましょう。

協働のまちづくりの主人公として

ー いま始まるわたしたちのまちづくりー

人は集まり、助け合い、知恵を出し合い、つながりを強めました。

さらに人は増え、やがて大きなまちとなり、まちを効率良く運営していく行政が生まれました。

時がたち、わたしたちの暮らしは豊かになりました。

しかし今、人と人とのつながりは弱まって、地域の役割は希薄になり、子供に関わる事件、若者やお年寄りの引きこもり、ゴミ問題など、行政でも解決出来ない問題が生まれてきています。

わたしたち検討委員会は、このような問題を解決するために、再び地域の役割を大切にし、人と人とのつながりを取り戻し、行政だけに頼らないまちづくりをしていかなければならないと考えました。

わたしたちは、市民どうしが、そして市民と行政が協力してまちづくりを進める方法を提案します。

それが、「人と人、市民と行政の協働のまちづくり」です。

それは義務でも押し付けでもありません。でも、わたしたちのまちだからこそ、自分たちの手で住み良くしていきたいから、みんな

で力を合わせるのです。

「協働」はまず一人ひとりの思いから始まります。住み良いまちづくりのために、行動を開始しましょう。

わたしたちは、誰もが

健康で安心して暮らしたい。

仲間がいて、生きがいのある暮らしをしたい。

恵まれた自然・きれいな水・澄んだ空気のなかで暮らしたい。

子供たちを健やかに育てたい。

と願っています。